

## 優しさのこだまを

人は人に優しくされると嬉しいです。その嬉しさは、こだまのように連動することもあります。

私は被災者だけが救われたらよいとは思っていません。日本人一人一人が、人に優しくできる人間に育ってくれたら未来が素敵になると思っています。〈中略〉

命は自然の前ではちっぽけなものです。その命を、何よりも大切にする尊さを知って生きていけたら良いと思います。

こうして、京都と気仙沼を長くつないで下さりありがとうございます。〈文房具のお礼状より一部抜粋〉

## お箸を販売しています

実行委員会では、夏の支援物資を調達するためにお箸を販売しています。もちろんオリジナルです。St、AGNESのロゴ入りです。ピンク・水色・黄色・紫の4色です。売り切れ次第また色をたします。みなさん買って下さい！体育祭ではご来場頂いた方にお買いあげ頂きました。もちろん残り少なくなりつつあるバンドナも！体育祭当日の売上金は、142,000円でした。ありがとうございました。

「お箸はいいですね。天国と地獄の長い箸のお話しを紹介しましう。天国でも、地獄でも食事は長い長い箸を使う決まりになっています。そこで地獄では食事を自分の口に運べずみんなやせ細り、いさかいが耐えない状態です。ところが、天国では長い箸を相手の口に食事を運ぶ絶好の道具として使い、みんなが喜んで食事ができていたというお話しです。被災地のために応援する気持ちと、天国の様子とぴったりですね」と。  
いつも、いつも活動を応援して頂いている先輩の美濃部さんから教えられました。



## 心の平安を祈り

福島への支援を考えている最中、こんなお話しを聞かされました。

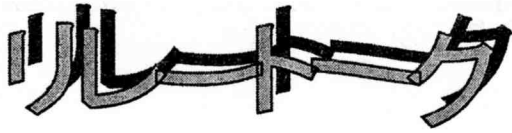
「ものが足りないのではないのです。傷ついた心へのサポートが求められています。福島の人たちは原発の事故以来、なぜ、危険な原発を自分の町に作ることに疑問すら抱かなかったのか自分を責める感情が、時が経つほど大きくなってきているのです。」

その後、一時帰宅が許された男性が、自宅倉庫で命を絶った記事を目にしました。絶望感にさいなまれている方々がたくさんおられます。あの日から1年と3ヶ月、復興の日はまだまだ遠い…

私たちと一緒にできることしませんか

実行委員大募集中





## 校長先生の被災地訪問レポート後半です

さらに45号線を北上して、大船渡市に入る。45号線は、山側を通っているため、右手に被災地区を左手に非被災地区を望む形で、北上することになる。このため、地形の高さによる津波被害をみごとにまでのコントラストとなってわれわれの眼に飛び込んでくる。まさに45号線は三途の川そのものである。

次に、陸前高田に入る。陸前高田市は大きく海に開け、広い平地から急に山が迫る地形で、三陸地方でも特に風光明媚は場所として知られ、海岸は海水浴場に適する白い砂浜が広がり、松林で有名な高田松原がある。このため、海岸近くを走る45号線沿いには道の駅やホテルがあり、多くの観光客でにぎわう場所でもある。このような地形から、巨大津波は町を一瞬の内に飲み込んだものと思われる。よく跡地を観察すると建物の鉄骨ごと根こそぎ引きちぎられていた。津波の威力のすごさにただ驚くばかりである。45号線沿いで車から降り、あたりを見渡しても、ホテルなどの残骸以外、見るものは殆ど残っていない。道路沿いに海に面して立つ6階建ての2棟のアパートは、5階（10m以上の高さ）まで津波が押し寄せたことが建物の被災状況から一目で判断できた。道路沿いには瓦礫の山があちこちに、ビルの残骸よりも高く積み揚げられている状態で、空しさと悔しさが心に迫る光景であつた。そんな中で、津波で流されずに生きながらえた1本の松（後にこの松は枯れていることが判明した）の凜とした姿が強く印象的で、なにかをわれわれに訴えている（伝えようとしている）ようでもあつた。

最後に、最終目的地の釜石に入る。釜石はかつて製鉄の町として栄え、ラクビーの新日鉄釜石はあまりにも有名である。高炉の火が消えた後も鉄の町を記念して鉄の歴史館がある。遠くの高台から見ると、町は一見津波による被害がなかったかのような佇まいで、建物も現状では大きく破壊された様子は見えない。しかし、商店街に入ると、1階部分は殆ど津波による浸水で被害を受け、復興がそれほど進んでいるようにも見えず、町に人が住んでいる様子も伺い知ることができなかつた。建物だけが残った街の静けさは、津波ですべてが流された場所とは違った、何とも言えない感覚をわれわれに抱かせた。高台から海を観察すると沖には、津波に備えて巨大な防波堤があつたが、ところどころ巨大津波で破壊、寸断されている様子が観察された。このような未曾有の巨大津波では防波堤は防災としての役割を十分果たせなかつたようである。このことは、私たちに何を伝えようとしているのか。また、自然が引き起こす巨大災害に対して私たちはどのように立ち向かえばよいのか。今回の東日本大震災の地震と津波から、私たちは多くを学んだ。この経験を後世に伝えることこそが私たちの義務なのです。

---

6月23日オープンスクールでは、東日本被災地応援実行委員会の活動紹介やお箸・バナナの販売を行います。現在の被災地の様子もご紹介します。